

「農林61号」の収穫適期は  
6月6日頃からと予想！

### 本年産の特徴と適期収穫

- 昨年12月から2月にかけて降雪量が多く、特に中山間地では生育に遅れが生じています。
- 5月24日時点の穂の水分による予想では、収穫適期は昨年より3日程度遅くなる見込みです。
- 収穫適期はほ場条件や今後の天候により変動します。上記の予想を参考に、適期収穫ができるように準備をしてください。
- 作業は安全に十分注意して行い、農作業事故を防ぎましょう。

### 参考：今後の気象予報

近畿地方1カ月予報（令和4年5月28日～6月27日までの天候見通し）

大阪管区气象台5月26日発表

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

## ○子実水分・収穫適期の簡便確認法

収穫適期までの日数 (子実水分)	爪先で圧迫 	粒の断面 
収穫適期まで約7日 (水分35%以上)	簡単に割れる (指の腹で 押しつぶせる)	柔らかい糊状
収穫適期！！ (水分25%以下)	何とか割れる	硬い糊状 少し粉っぽいろう状

## ○収穫作業のポイント

### 1. 小麦の収穫適期は原則子実水分25%以下！

麦に露がつきやすい早朝・夕方・降雨後は、穀粒の水分が著しく上昇するため、収穫作業は避けてください。子実水分が30%以下になれば収穫可能となりますが、原則として子実水分が25%以下になってから収穫しましょう。

《子実水分が高い場合のリスク》

- コンバインの回転数が高すぎると、打撃により粒が損傷し、品質が低下します。作業時の子実水分が高いと、より損傷粒が増加しやすくなるため、回転数を低下させましょう。
- 乾燥調製施設のホッパー等が詰まり、処理能力の低下や乾燥ムラの原因になります。
- 赤かび病等の病原菌のまん延、発熱や発酵、ムシやすくなります。

### 2. 赤かび粒は搬入しない！

赤かび粒が発生した場合は、絶対に施設に持ち込まないでください。

### 3. 収穫後は速やかに乾燥施設へ！

湿度の高い時期の収穫のため、ムシによる品質低下や赤かび病の感染拡大を防ぐ必要があります。収穫後は速やかに乾燥施設に搬入しましょう。

### 4. 刈り遅れに注意！

刈り遅れると、穂発芽や倒伏の増加、赤かび病の発生等で品質低下のリスクが高まります。

### 5. 必要に応じて刈り分けの判断を！

以下のような場合は、刈り分けが必要です。

- 遅れ穂が多い（選別時、未熟粒が混入する恐れがある）。
- 赤かび病の発生が多い。
- 倒伏の程度が大きい。
- 穂発芽が発生している。
- 雑草の種子が混入する恐れがある（カラスノエンドウ、イタリアンライグラス等）。

## ○収穫や後作に向けて今一度、排水対策の徹底を…！

登熟期の湿害は減収するだけでなく、品質を大きく低下させるので、排水溝を今一度点検し、速やかに排水するよう、溝さらえなどを徹底して行いましょう。